縹十五句

松岡隆子選

子遍路をもう見ずなりぬ土用の芽　宮尾直美
みんみんや朝より気温上昇中　濱地恵理子
ちちははの在すかに透け青簾　松原ふみ子
魔法瓶振れば大暑の氷鳴る　室井千鶴子
蹟きしものに振り向く日の盛　渡辺あつ子
空わたる鳥のひと声夕涼し　下平直子
せめぎ合ふ水のひかりを葭簀越し　佐藤郭子
盆過ぎの浮いて大きな鳥の羽根　別府　優
明易の空の奥より日が滲む　隈部郁子
滝涼し母亡きあともこの椅子に　広渡詩乃
水旨し四万六千日暮れて　東條恭子
元寇の海の底より夜光虫　一ノ瀬正喜
すこし病みすこし弱気や旱星　小山陽子
しばらくは胸突きの道ほととぎす　杉浦くにを
石菖の間を縫へる水ひかり　珍田千代子